

薬だっ 知識

薬をもらったときは、どのように保管していますか。薬には、それぞれ最適な保管方法があり、適切に保管することで劣化を防ぎ、より安全で効果的に使用することができます。

薬局で薬を受け取る際に、「高温を避けて保管してください」「光を避けて保管してください」「湿気に弱いので、台所など水の近くの保管は避けてください」「冷蔵庫の凍らない場所で保管してください」など説明を受けたことがある方もいらっしゃると思います。

薬を劣化させずに保管するには温度、湿度、日光に注意が必要です。医薬品の規格基準書である日本薬局方には室温保管は1～30度、常温保管は15～25度、冷所保管は1～15度と定義されています。ほとんどの薬は常温保管で大丈夫です。しかし、座薬、シロップ薬、目薬、注射薬

34. 保管の方法

「全て冷蔵庫」は間違い

などの中には、注意が必要な冷所保管の薬もあります。

日本の夏は高温多湿で薬にとっては非常に厳しい季節です。

湿度が高いと、水に溶けやすい性質を持つ薬や、カプセルの薬が溶けてしまうことがあります。

対策として、冷たくて、暗くて、乾燥している冷蔵庫がすべての薬の保管に向いているように思えますが、実は違います。錠剤やカプセルを服用する時に冷蔵庫から取り出した際、急な温度変化により生じた結露の水

分が薬の成分に影響してしまうからです。湿気に弱い特徴を持つ薬に冷蔵庫は向いていません。

特に冷所保管の指定がない薬であれば、乾燥剤を入れた缶の中に薬を入れて、高温にならない場所に保管すると日光も避けることができます。おすすめてです。自宅に持って帰った薬は、安全に使用していただくために、適切に保管してください。

(鹿児島県薬剤師会常務理事
・中島啓)



持ち帰った薬は適切な方法で保管を

「令和2年8月11日（火）掲載（34. 保管の方法）」